

特集  
猛暑に備えろ

# Part. 2 ゲリラ豪雨から 身を守れ

予測不能な「ゲリラ豪雨」

増加する豪雨と被害

雨が広範囲にわたり、数時間〜数日に降る場合を「集中豪雨」と呼びます。一方、1時間に50ミを超える激しい雨が、短時間で局地的に降る場合を「ゲリラ豪雨」と呼びます。

ゲリラ豪雨は、傘などでは太刀打ちできないほどの強い雨が特徴です。

原因は積乱雲。地表付近の暖かく湿った空気に、上空の冷たい空気が流れ込むと、強い上昇気流が発生。上昇気流によって、雷を伴う積乱雲が発達し、すさまじい雨を降らせます。

降雨範囲が狭く、数十分〜1時間という短時間の雨なので、予測することは極めて困難とされています。

気象庁の1976年〜2014年の年間の観測値によれば、1時間の降水量が50ミを超える回数は10年ごとに21・3回ずつ増えています。

被害も年々増加。「ゲリラ豪雨」という言葉が、流行語にノミネートされた2008年、兵庫県神戸市の都賀川がゲリラ豪雨で増水。児童を含む5人が亡くなる事故が起きました。また、13年には栗石町で1時間に78ミの降水量を観測。住家被害383件、がけ崩れなどの土砂災害103カ所など、被害額は65億円ともいわれています。

全国各地で猛威を振るうゲリラ豪雨。予測困難な豪雨でも、正しい判断と対処で減災は可能です。

■ゲリラ豪雨と集中豪雨の違い(資料:ゲリラ豪雨展)

項目	ゲリラ豪雨	集中豪雨
範囲	数 <sup>km</sup> 〜10数 <sup>km</sup>	数10 <sup>km</sup> 〜数100 <sup>km</sup>
時間	数十分〜1時間	数時間〜数日
予想	予測が困難	ある程度予測が可能
被害	都市部の小・中河川のはん濫 急な川の増水 アンダーパス浸水(※) ※鉄道高架下など、周りより低くなっている道路への浸水	比較的大きな河川のはん濫 大規模洪水や浸水 土砂災害

## 洪水危険河川の監視計画水位を見直し

豪雨によって急激に河川が増水する場合があります。市は、それぞれの観測地点で、雨量や水位の見込みに応じた行動計画として「洪水危険河川の監視計画」を策定しました。

対象は、洪水が起こる可能性が高い9河川、15カ所です。河川管理者(国や県)が、はん濫危険水位や避難判断水位を見直したことに合わせ、市の監視計画の行動基準になる水位を下表のとおり変更しました。

番号	河川名	観測所名(地域)	変更前*( <sup>m</sup> )	変更後*( <sup>m</sup> )
①	北上川	諏訪前(川崎)	9.2 / 8.9	8.8 / 8.6
②	磐井川	釣山(一関)	4.0 / 3.5	6.5 / 5.9
③	砂鉄川	妻神(川崎)	6.5 / 6.0	8.7 / 8.1
④	千厩川	矢作(川崎)	2.5 / 1.8	4.5 / 3.2

\*はん濫危険水位/避難判断水位  
④は、はん濫危険水位/消防団待機水位

## Point! 防災行政情報システム(屋外マスト)で緊急情報を発信

市内に整備された355基の屋外マスト。全市一斉や地域ごとに緊急情報や行政情報を放送しています。放送を聞き逃した場合は、電話応答装置「テレガイド」(☎5008)で内容を確認できます。



## Point! 非常時でもアクセスが混雑しない「岩手県一関市災害情報ブログ」

災害時にアクセスが集中し、市ホームページなどを開けないことを予想して、市はYahoo!JAPANと災害協定を締結。常に過去の情報を複製しているため、確実に迅速な情報提供が可能です。避難勧告や避難指示なども確認できます。



## 減災のカギは意識と知識

災害現場に携わる人たちは「自分は大丈夫」という思い込みが一番危険」と口々に語ります。災害は、いつでも起こるかわかりません。常に自分にも起こりうるという意識が大切です。

正しい知識や情報があれば、症状を最小に抑えたり、災害の被害を防ぐことができます。「正しい知識から判断すること」と「正しい情報を早く知ること」が重要です。

熱中症は防げます。万が一、熱中症になっても、応急処置を知っていれば、重症化を回避できます。予測不能といわれるゲリラ豪雨も、避難場所などを事前に確認しておけば、迅速な避難が可能です。

正しい知識と心構えがあれば、減災は決して難しいことではないのです。まさに「備えあれば憂いなし」です。減災は、私たち一人一人の意識と知識にかかっています。

## 災害時は市民の「心の灯台」に

災害時には、スタッフが24時間体制で待機し、情報をリアルタイムに伝えます。皆さんの行動の道しるべになるように、最新の正確な情報を発信。「ラジオを聞けば、安心できる」そんな「心の灯台」のような存在になりたいです。

これから訪れる梅雨の季節。番組はFMあすも専用ラジオはもちろん、カーラジオやスマートフォンのアプリでも聴けます。日常も非常時も、FMあすもからの情報に耳を傾けてください。

ラジオは皆さんから寄せられる情報や声があってこそ成り立ちます。皆さんからの情報を待っています。

## Point! 市民のライフライン FMあすも専用ラジオ

市から各世帯・事業所に貸し出している「FMあすも専用ラジオ」。平常時は、地域に密着した情報や市政に関するお知らせなどを放送しています。非常時には、災害に関する情報や避難情報などを発信。人命などにかかわる非常事態には、自動で起動して最新情報を届けます。番組を楽しむためだけでなく、ライフラインとしての機能を備えたラジオです。



## Point! 北上川学習交流館で「ゲリラ豪雨展」メカニズムや怖さを学ぶ

ゲリラ豪雨の被害や発生のメカニズムなどを学べる「ゲリラ豪雨展」は、6月2日から北上川学習交流館「あいぽーと」で開かれています。5日には、黄海小の4年生14人が見学。豪雨が降る仕組みをさまざまな展示品から体験しました。同展は、7月23日まで開催(要予約)。入館は無料です。

- 1 「勉強になった」という菊池陽斗くん
- 2 ペットボトルで雲ができる仕組みを体験
- 3 土砂流の映像を見て驚く児童
- 4 床下浸水をポンプを使って排水する実験
- 5 耳をすまし雷雨の音を聞く
- 6 齋藤事務局長の説明を受ける児童ら

## Point! いつでも避難できるように事前の確認が大切

ゲリラ豪雨が起きたとき、私たちにできるのは避難すること。非常時に、迅速に避難できるように  
▶避難場所 ▶避難経路 ▶自宅の地盤が海拔から何センチなのかなどを確認しておきましょう。普段から、判断力や情報収集力を養っておくことが大切です。



北上川学習交流館  
事務局長  
齋藤一公さん  
Saito Kazutomo  
川崎町・66歳

FMあすも・パーソナリティ  
塩竈一常さん  
Shiogama Ichijo